



ぶらっとほーむ・野外活動クラブ ユースボランティアリーダー
 八代ワイズメンズクラブ 緒方 玲奈 さん

子どもたちの持つ良さを見つめたい

輝く笑顔が印象的でYMCAでのリーダー一名が「すまいるリーダー」だと聞くと誰もが納得しそうな緒方玲奈さんは社会人1年目。大学では児童教育や特別支援教育について学び、「学校の先生を目指していた」という緒方さんですが、4月から勤務しているのは阿蘇郡高森町を拠点に多機能型障がい児通所事業所や「森のようちえん」、自然体験教室などを運営している一般社団法人solです。「大学の同級生の中で教員にならなかったのは私だけ。勇気がいりました」と笑う緒方さんはなぜ周りとは違う道を選んだのでしょうか。

「きっかけは大学2年と3年生の秋に行った教育実習でした」。夢への第一歩である実習ですが、教師として「常に正しくあるべき」という強い責任感と義務感に襲われた緒方さんは、次第に「自分は建前で子どもたちに接しているのでは」と感じるようになりました。「うまく立ち回ろうとしていたんですね」と当時を振り返る緒方さん。学校教育の大切さを感じながらも「つくった自分ではなくて、ありのままの自分として子どもたちと接したい」という想いが強くなったといいます。「特別支援学級の子たちや学校に息苦しさを感じている様子の子子どもたちと接した経験も大きかったです。一人ひとりの持つ良さを引き出してあげるにはどうしたらよいのか。どうしたら子どもたちがこの世界で生きていける力を育てることができるのかと考えるようになりました」。

これからもYMCAとともに

新たな活動拠点に期待をもって

それまで描いていた将来像が揺らいでいた大学3年生の冬に出合ったのがYMCAでのリーダー活動でした。「大学の後輩がYMCAでリーダー活動をしていました。不登校の子どもの居場所づくりを目指す『ぶらっとほーむ』を始める時に声をかけられたんです」。

2022年の1月に特別プログラムとしてスタートしたぶらっとほーむは2022年6月から毎週の活動に。やがて月に1回、子どもたちがグループ活動を行う野外活動クラブにも関わるようになりました。緒方さんが目指すのは、皆が生き生きと過ごせる居場所づくり。「子どもたちには、自分の本当の想いを伝えることを大切にしています」。リーダー活動は自分を見つける時間にもなったといいます。



YMCA本館で運営していたぶらっとほーむの拠点がこの春からYMCA東部センターにかわったことに緒方さんは新たな可能性を感じているそうです。「この前、東部センターでの活動に参加したばかりです。住宅街の中で近くに学校があって、地域とのつながりをいっばいつくれそうだと期待しています。ぶらっとほーむの参加者とリーダーたちだけでつくる世界もよいけれど、子どもたちには様々な人とのつながりの中で育ってほしいですね」。

社会人としてのYMCAとの関わり

教員という目標を失い、悩んだ末に緒方さんが就職先に選んだのも、子どもたちと向き合いながら地域の人とのつながりをつくる現場。今、緒方さんは阿蘇の大自然の中で子どもたちと毎日過ごしています。社会人になり、これまでと同じようなリーダー活動は難しくなる中、「それでもYMCAと関わっていききたい」と考えた緒方さんはある決断をしました。YMCAを支える国際的なボランティア団体であるワイズメンズクラブのメンバーになることです。

緒方さんが入会したのは県内に11あるワイズメンズクラブの中の一つである八代ワイズメンズクラブです。他のメンバーは緒方さんより年上ばかりで、中には30年以上にわたり活動を続ける人も。「私から見ると『すごい人たち』です。学生の時から交流があり、私たちリーダーの活動を支えてくださっていることを知りました。ずっとありがたいと思っていたんです」。ワイズメンズクラブという立場であれば、これからもリーダーたちを支えていけるのではと考えたそう。「4月の入会式で皆さんの前でワイズメンズクラブのメンバーとしての誓いを宣誓した時はシャキッとなりました。ボランティア活動を通して、自分の知らない世界に目を向けたい。そうして自分の力でできることをちょっとずつ広げていけるのかなと思っています」。社会人としての第一歩とともに、YMCAとの関わりも新たな歩みを進めた緒方さん。ワイズメンズクラブとユースがより深いつながりをもつための架け橋となってくれることでしょう。

Pickup

YMCAの保育園、幼稚園、幼児園で春の遠足、交流会を行いました



熊本五福幼稚園



水前寺幼稚園



永草保育園

I n f o r m a t i o n 行こう 見よう 深めよう

児童発達支援事業所 YMCAりとりすてっぷ



子ども
×
発達支援

YMCAでは1994年から発達障がいのある子どもたちの支援事業に取り組んできました。現在は、全国35カ所で児童発達支援事業・放課後等デイサービス・サポートプログラム等を実施しています。熊本YMCAでは、放課後等デイサービス「自由なイルカたち」(段山本町)に続き、2カ所目の支援事業所を開設予定です。

場 YMCA熊本五福幼稚園併設(熊本市中央区魚屋町1-9)

定 1日10名(午前5名、午後5名予定) 開所日 月～金 ※祝日・事業所の定める休日を除く。 対 2歳～就学時前 利用時間 ①9:45～11:15 ②13:50～15:20 ※言語訓練と通常療育の組み合わせです。言語聴覚士による個別訓練を木曜と金曜に行います。 ※ご利用には受給者証が必要です。詳しくはお尋ねください。

問 Tel 096-311-2095(6月2日～)



ウォーターセーフティー キャンペーン



子ども
×
安全

熊本YMCAでは「全国YMCAウォーターセーフティーキャンペーン」の一環で30年以上にわたり、子どもたちを対象に水難事故を未然に防ぐための「着衣泳体験」を行っています。1995年からは、小学校・幼稚園等ヘリダーを派遣し、児童や大人を対象に、ウォーターセーフティー(水上安全)講習会を実施。また、水泳授業が始まる6月に合わせ、水泳が苦手な児童を対象に講習会も行っています。

キャンペーン内容・2022年度実績

- 1.「YMCAウォーターセーフティーハンドブック」の無償配布(熊本市内・熊本市外の小学校1年生対象)・・・162校 10,850部
 2. 小学校および、幼稚園・保育園での水上安全講習会(着衣泳体験)・・・18校・園 2,205名
 3. 水泳苦手克服プログラム「みんな泳げる25m」講習会・・・4校 232名
- 問 ながみねファミリーセンター
Tel 096-353-6391(音声ガイダンス[3])



新たなチャレンジをYMCAで 2023夏休み こどもプログラム

この夏も子どもたちのキャンプと夏休み限定のスポーツスクールを開催します。YMCAで新たなチャレンジをしてみませんか。



子ども
×
チャレンジ

サマーキャンプ

- 夏休み3日間デイキャンプ ●はじめて体験1泊キャンプ ●夏のガールズキャンプ ●昆虫大作戦キャンプ ●フィッシング海遊びキャンプ ●種子島宇宙キャンプ ●富士登山キャンプ ●3日間のえいごデイキャンプ

スポーツスクール

場 みなみセンター(南区田迎)、ながみねファミリーセンター(東区長嶺南) 内 水泳教室、体操教室 他
問 Tel 096-353-6391
(音声ガイダンス みなみ[2] ながみね[3])



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 条 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.18
総主事 光永 尚生



私たちにとっての日常とは何か ～ウイズコロナの時代に生きること～

5月8日から、新型コロナが5類感染症へ移行されました。私たちにとっては、たいへん大きな変化ですので、様々な葛藤も生まれているようです。街中での行動、教室内での行動、会合や食事会での行動、そして家庭内での行動など皆さんの周辺は如何でしょうか。

熊本YMCAの地域センター、事業、学校の様子から少し変化を感じています。専門学校、幼

稚園、また国や行政との確認が必要な保育園、幼稚園などは、ガイドラインに沿った毎日の過ごし方を提示しつつ、学生、会員、職員の皆さんもそれぞれに変化を受け入れようとされています。4月に入国されたばかりの日本語学校の留学生の皆さんは、日本の生活に慣れることに精一杯なのか、お互いにフラットな関係で、比較的落ち着いて過ごされているようです。一方で、プールに通う水泳クラスの子どもたちは、元気いっぱいですし、こどもえいごや体操、ダンスの子どもたちも徐々に、以前の姿に戻っていているようです。また、成人ウエルネスの水泳、ヨガ、ダンス、エアロ、ストレッチなどの皆さん、成人英会話をはじめとする外国語クラス、歌声広場の皆さんも様々です。私たち日本人は、同調することが多いので、右に倣えということにもなるのですが、これからの21世

紀の半ばを迎えていく中で、再び、困難な時代がやってきた時には日本人だけで同調することは難しく、多様性を受け入れつつ、共生の道を探ることが大切なテーマとなってくるでしょう。

今回のパンデミックを経験して、私たちは多くの事を学びましたが、歴史は繰り返しますので、次の困難な時代になった時に、この教訓が生かされるように願っています。

まもなく、素敵な夏がやってきます。子どもたちだけでなく、YMCAに集う、全ての皆さんが夏を満喫し、今まで以上に自己実現ができて、大切な時間となるように祈っています。夏休みには、子どもたちがプールや体操、サッカー、キャンプに参加する季節です。大人も一緒に、元気を取り戻すきっかけとしたいものです。世界中が、平和と愛で満たされ、元気になるように祈るばかりです。素敵な夏をお過ごしください。

R | E | P | O | R | T

[4月21日⇒ 5月14日]

専門学校

熊本YMCA学院

「ほめ育」をスタート

「専門教育」、「キャリア教育」、「人間教育」の教育方針に取り組む熊本YMCA学院が、人間教育の一環として「ほめ育」をスタートしました。コロナにより人間関係に悩む若者が増えていると言われていいます。自己肯定感を高く持てない、人との関りが難しいなどの悩みを解消し、学生たちの自立の力を育むことを目的としています。

ほめ育は、脳科学・心理学をミックスした教育メソッドで、世界20カ国に広がり、教育界や企業などの研修に導入されています。専門学校では、熊本YMCA学院が初めての取り組みとなります。

4月21日(金)の第1回目は、ほめ育の開発者である原邦雄さんとオンラインでつなぎ、会場にはほめ育シニアコンサルタントの中園暁子さんを迎えました。「自分のここが好きシート」では、学生たちが自分の好きなところを書き込み、それをもとに学生同士が話をし、互いのいいところを褒め合いました。はじめは人に褒められて何だかこそばゆい様子でしたが、次第に笑顔と喜ぶ声が広がっていきました。褒められること、褒めることで気持ちが前向きになり、自信が持てる時間となったようでした。

YMCA学院 加藤泰文



野外教育

野外活動クラブ

2023年度発会式

野外活動クラブでは、子どもたちが年間を通してADVENTURE、FUN、ACTIVEの3クラスに分かれて活動をしています。対象年齢の違いだけでなく、クラス毎にテーマが分かれ、ADVENTURE(冒険心)、FUN(楽しむ)、ACTIVE(自発的に)としています。

4月23日(日)、熊本市国際交流会館ホールで本年度1回目の活動「発会式」を行いました。3クラスのメンバー、保護者、ユースボランティアリーダーら約100名が集まり、野外活動クラブの目的、目標、年間スケジュールなどの確認を行いました。

その後、二の丸公園でクラスに分かれてグループ

活動を行いました。初めての参加で緊張した様子の子どもたちもリーダーたちと遊ぶと次第にパワーアップ。昨年度に引き続き参加した子どもたちには友だちやリーダーとの再会を喜ぶ様子が見られ、「今年から日帰りのクラスから宿泊のクラスに変わって不安もあるけど、テントで寝たり、ご飯を作ったりするのが楽しみです」との声も聞かれました。

今後も活動に関わる全ての人たちの居場所、成長の場となるよう活動します。

野外活動クラブ 藤本博人



ユース

第54回全国YMCAリーダー研修会

熊本から4名が参加

5月4日(木)～6日(土)、岡山県の倉敷市自然の家を会場にYMCAせとうちが主管の全国YMCAリーダー研修会が行われました。全国のYMCAから139名が一堂に会し、熊本からは私を含めた3名のユースボランティアリーダーと職員1名が参加しました。

今回のテーマは「Youth must go on～みえていないものが ほらそこに～」。

1日目の基調講演では、絵本セラピストの都築照代さんから7冊の絵本の紹介がありました。絵本を通して、考え方は人それぞれであり、自分の考えを持つことが大切であること、違

う視点に立ってモノを見ることで感じ方が変わるということを改めて感じました。グループミーティングでは、「YMCAが求める社会」について話し合い、それを地図にまとめました。私のグループでは愛が必要であるという結論になり、そこから話を深めていきました。YMCAでの活動やそこで感じた思いなどを語り合う中で、活動地域は違っても私たちユースの思いはつながっているのだと感じる機会になりました。

ユースボランティアリーダー 木村郁美



防災教育

たのしく防災ワークショップ

ボランティアサロンを開催

5月14日(日)、みなみセンターのボランティアサロンの第1回として「たのしく防災ワークショップ」を開催しました。NPO法人防災WESTの早田蛭さん、羽廣正樹さんを招き、出水期を前に豪雨への備えを主なテーマとして講話とワークショップを行いました。小学5年生から60代の皆さんが参加。過去に発生した豪雨災害の映像を観たり、避難情報やハザードマップの見方を学ぶなどしました。

ワークショップでは、グループにお題が出されます。「父・母・私・妹・おばあちゃんという家族構成で、車なし、川のそば3階建てマンションの1階に居

住」という条件で、豪雨の天気予報から実際に大雨特別警報が出るまでに、どのような行動をするのか、書き出していきます。備えや避難行動には「これがダメなら、こうしよう」という複数の選択肢があることがとても大切であるという講師のお話がとても印象的でした。

参加者から「備えが大切なのはわかっていたが、まだまだ甘いと感じた」との声も聞かれ、改めて家庭や地域での防災の重要性を実感した様子でした。

みなみセンター 丸目陽子



熊本YMCA学院日本語科

11カ国からこんにちは

コロナ禍により来日が叶わなかった留学生たちが2022年度から順次入国が可能になり、熊本YMCA学院日本語科は賑わいを取り戻しました。現在11カ国から来た113名が在籍しています。皆さんの日本の印象、頑張りたいこと、将来の夢などを教えてもらいました。

＝出身国 ※○内は現在の在籍者数です



タマン プラカス
TAMANG PRAKASHさん

YMCAのホテル専門学校に入り、日本のホテルで働きたいです。そして自分の国に帰り、自分のホテルを作りたいです。



アリ ヤシル
ALI YASIRさん

日本はどこもきれいで、すごいです。将来は日本で自分の自動車会社を作りたいです。



クルズ ジアン
CRUZ GHYANNEさん

日本はどこにも自動販売機があり、びっくりしました。チャンスがあれば日本にずっと住もうと思っています。家のとなりで農場を作るつもりです。



ゲシーリヒ ララ
GESIERICH LARAさん

日本に来て楽しいことは色々な国からくる人に会えることです。将来はグラフィックデザインと人をサポートするようなところで働きたいです。



キョ ヨシキ
許 善樹さん

YMCAで心を開いてコミュニケーションすることを学び、価値観が広がりました。将来は他の国にも留学してみたいです。



ゼイナブ レファイ
ZEINAB REFAIさん

日本が大好きです。だから大きな希望を持っています。いつか日本でエジプト料理レストランを開きたいです。



パシン バットシリタット
PARZIN PARTSIRITOSHさん

日本語の勉強とアルバイトで身につけたスキルを活かして、国際営業になるように全力を尽くしていきます！



マリナ ザミコブスカ
MARYNA ZAMIKHOVSKAさん

私は日本で良い仕事をしたいと思っています。私の家族と一緒に日本にいたいからです。学校はとても面白くて多様で、外国人とのコミュニケーションがたくさんあります！



サヴィンディ ディ シルワ
SAVINDI DE SILVAさん

私の夢は日本で洋服屋の会社を作ることです。だから、日本語の勉強を頑張っています。



ヨウ セイシン
楊 醒晨さん

将来の夢は中国で自分の語学学校をつくることです。日本に行きたい中国人たちを助けたいと思っています。



ホ ティ リ ナ
HO THI LY NAさん

日本に来てたくさんの優しい人と知り合いました。勉強も仕事もたくさん助けてもらいました。本当に感謝しています。将来は大学で勉強したいです。

熊本YMCA学院日本語科 ウクライナ学生支援募金

この春から3名のウクライナ避難者が日本語科で学んでいます。うち2名は日本財団の支援により学費が賄われますが、1名(Sさん)は今年度支援の対象外となり学費の捻出が難しい状況です。熊本YMCAではSさんの学費の一部を賄うために募金活動を行うこととしました。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

【使途】日本語学校年間学費74万円の内、40万円の奨学金募金

【募金期間】5月1日(月)～7月31日(月)
募金方法はWebサイトをご覧ください。



わたしと聖句

鹿本キリスト教会
原口 泉



ルカによる福音書12章7節

それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。

神が知っていてくださる

教会にいらっしゃる方々から悩み事を打ち明けられることがあります。そして一通り話が済んだから「先生にお伝えできてよかった」と言われることもあります。私は問題を解決できるわけでもなく、ただ聞いて祈ることしかできないのですが、聞いてもらうだけで少しは気が楽になります。私たちは、悩んでどうしていいのかわからなくなると、その複雑な問題を自分以外の誰かに共有してもらうことで、いくらか冷静になり、心も軽くなります。そしてもし受け止めてくれる人が、頼り甲斐のある存在であれば、それだけ安心感も大きくなります。

冒頭の主イエスの御言葉は、神が私たちのすべてを知ってくださっているということを教えています。頭の髪の毛さえ一本残らず数えられているというのです。自分以上に自分のことをわかっていてくださるということでしょう。いつくしみ深い神が、小さな私たちひとりひとりに目を配り、どんな悲しみ、困惑、葛藤を味わっているか、詳細に把握し、共有してくださっているのです。そして折々に助け、導いてくださるのです。これ以上に心強いことはありません。

このような方にこそ安心して悩みを打ち明けることができます。お祈りして、心をさらけ出して聞いていただくことができます。その時どれほど心が軽くなり勇気づけられるか、ぜひ皆様も実際に祈りして試していただきたいと思います。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2023年度基本聖句

マタイによる福音書7章7節

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。